２０２１年1月１０日

１９６４年東京オリンピックを振り返って
（開会式入場券交換所で起きた出来事）

中央ろうきん友の会
新百合丘支部　会長　三木

１９６４年東京オリンピック開会式は、東京オリンピック大会初日の１９６４年（昭和３９年）１０月１０日（土曜日）に国立競技場で行われました。前日（１０月９日）は台風の接近により強い雨でしたが、翌日は目の覚めるような晴天でした。

１９６４年のオリンピックに東京招致が決まりました。組織委員会から開会式の応募要領が決定され、即小生の家族関係全員で申し込みました。（小生の家族関係者で１０名です。）

日本国内から多くの応募者が申し込まれる国民的な行事であることを考えれば、当選は不可能と考えておりました。オリンピックの基本理念である「参加」することをまず考えました。したがって「当選」は強く望んでいましたが、「まずは、当たらないだろう」と当時は誰もが考えるところだったと記憶しています。結果発表が郵送されるころ「当たってくれればいいなぁ！」と思いました。

結果は、１０人申し込みそのうちの１枚が「２等席」に当選となりました。開会式の当選券を交換すべく、川崎市役所近くの日本交通公社（JTB）の案内所で交換しました。

当選券を胸ポケットの奥深くに仕舞って帰ろうとしたところ、出口付近で初老のご夫婦に呼び止められました。（その当時は定年年齢が５５歳だったと思います。）

ご夫婦曰く「失礼ですが、あなた様は何等でしょうか？」、私は、「２等です」と答えました。

初老のご夫婦は「私どもは１等と２等が当たり妻と一緒に見たいと思っております。大変失礼なお話ですが私に（あなたの）２等券と（私の）１等券を交換してもらえませんか？」と言うことでした。

一瞬躊躇しましたが、初老のご夫婦が真剣に迫って来る熱意に押し切られ、当方は快く承諾しました。それは、約５６年前の出来事でした。交換所の出口で初老のご夫婦の嬉しそうな後姿が今でもほのかに思い出されます。

（参考：その当時の交換価格が１等券で１０．０００円、２等券は７．０００円）

追記：思いもよらなかった事にさてどうするか考えました。その当時の小生にとってカメラを買うなんて言うことはまさに「清水（寺）の舞台から飛び降りるといった心境でした。」平均賃金は１０．０００円程度で仮に一眼レフカメラと望遠レンズ付きで約２０万円かかる時代でした。手持ちはほぼゼロ。そこで恥ずかしながら、当時の労働組合の役員に相談したところ、労働金庫を紹介され「労金」のローンを利用させていただきましたことを今でも鮮明に記憶しています。これまでもこれからも、いつも我々の身近にある金融機関であって欲しいと思う次第です。

以上